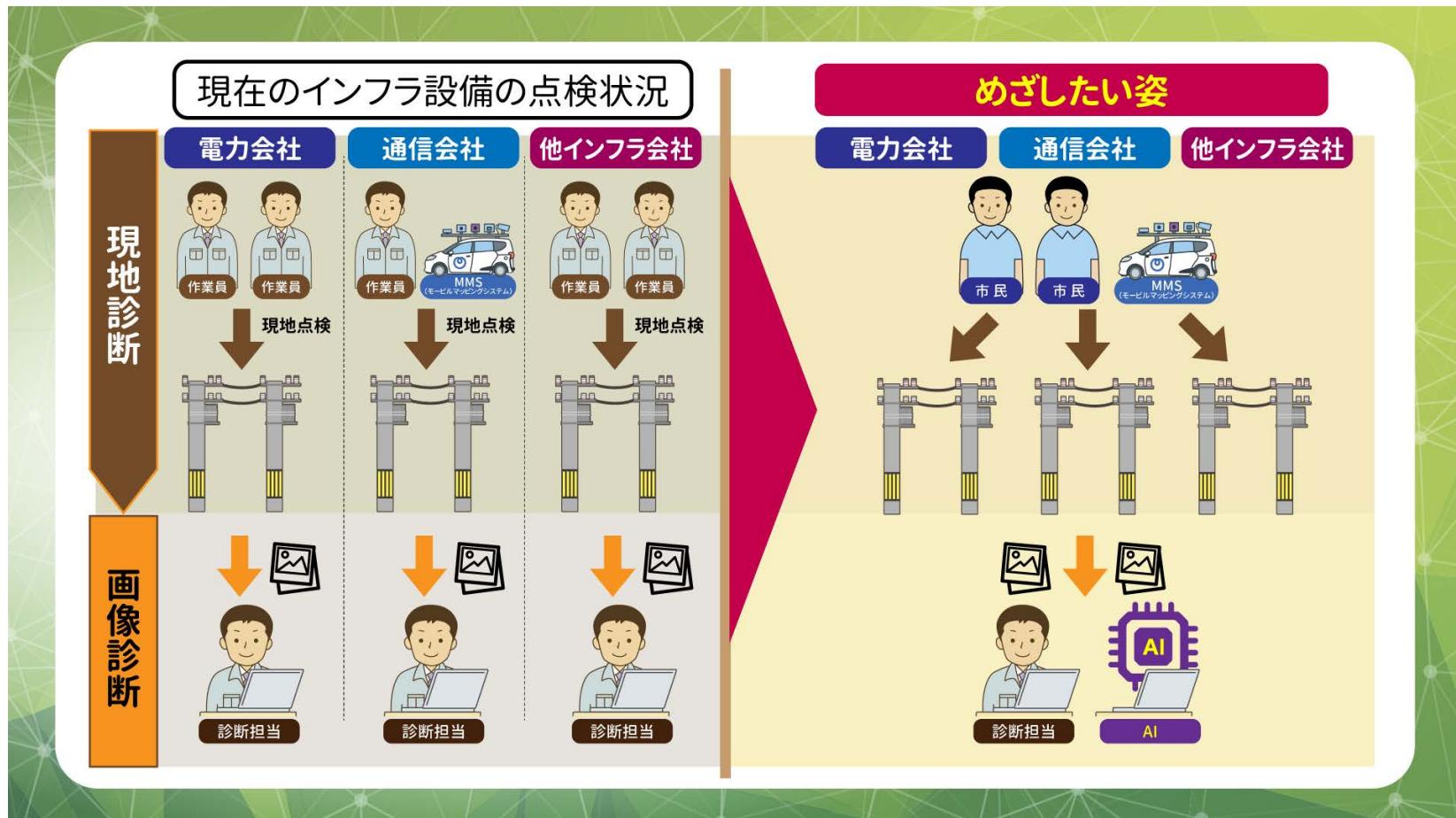




実証実験の目的および内容について

実証実験の目的

本実証実験は、市民による電柱の撮影、AIを活用した画像診断、専門オペレーターによるリモート診断を組み合わせることで、**電力会社と通信会社が同じ仕組みのもとで効率的に点検できる新しい「共同点検モデル」**の実現性を検証します。市民撮影イベントで取得された画像を共通の基盤で扱い、診断基準や作業フローを揃えることで、**両社が同じ仕組みのもとで効率よく、高品質に点検できる、サステナブルな点検体制づくりに繋げていくことを目的としています。**



実証試験で検証する内容

「共同点検モデル」の実証を通じて、インフラ設備の保守点検の一連のプロセスにおける、高度化・効率化の余地とそれらの実現性について、検証を実施します。

共同画像収集・診断・保守プロセスフロー



(参考) NTT西日本「リモート診断」について

NTT西日本グループでは、構造物点検の高度化・効率化を目的として、**MMS※1により撮影されたインフラ構造物の画像を用いたリモート診断を実施**しています。これらの導入により、従来の現地派遣型の点検に比べ、**短期間に品質を均一化した点検が実現**でき、インフラ設備点検の高度化・効率化に寄与しています。

※1 Mobile Mapping Systemの略。レーザスキャナとカメラを搭載した車両を用いて、設備の形状・外観の画像取得を実施する

